

使用手引書

【教材タイトル】 小学校低学年算数 計算指導【たし算ひき算】

【対象】 算数の計算に一人では取り組めない、小学校低学年相当の生徒

【内容】 算数の計算をする力はあるが、一人で取り組むことが出来ず、止まってしまう生徒さんと、数字を交互に書いていくことで計算を進める。取り組みやすくするため、初めは一桁の範囲で足し・引きを行う。足す数・足される数、引く数・引かれる数を、講師と生徒が交互に書く。講師が出した数に生徒が答えてもよいし、生徒が出した数に講師が答えてもよい。慣れてくれば2けたに数字を増やしていく。可能であれば繰り上がり・繰り下がりまで入れる。

【特徴】 算数の計算を、暗算でやる力はあるが、書いている問題に取り組むことを嫌がる場合に、①講師と交互に書き、かつ数字を声に出しながら行う②決められた数字ではなく、好きな数字を選んで入れることで、参加型にし、モチベーションを上げる、ということをする。また、くり上がり・くり下がりが苦手な場合には、足しても繰り上がらず、引いてもくり下がらない数字を、講師がコントロールすることで、達成感を保ち、かつ一定時間取り組める経験をしてもらう。

【指導方法】 暗算でやる力はあるが、書いている問題に取り組むことを嫌がる場合に、計算とは言わず、「では、好きな数を書いてください！」から始める。「7だね、では7たす2は？」と問いかけて書き、生徒には「9」を書いてもらう。「9だね、では9ひく3は？」と問いかけて書き、ということが続ける。

※以下は指導の工夫のための数式なので、等号の左右は等しくなっていない。

生徒が、まず好きな数を書く。7 次に講師が $+2=$ と書く。 $7+2=$

生徒は足した数を書く。 $7+2=9$ 講師が $-3=$ と書く。 $7+2=9-3=$

生徒は引いた数を書く。 $7+2=9-3=6$ 講師が…と繰り返す。

講師と交互に書き、かつ数字を声に出しながら行うと良い。また、決められた数字ではなく、好きな数字を選んで入れることで、参加型にしている。生徒が楽しんでいる様子を確認しつつ、考えてくれた数字がうまく計算につながるように、足す数・引く数を講師がうまく調整する。モチベーションが上がっているかを確認し、適度な回数まで行う（10回程度を推奨）。くり上がり・くり下がりが苦手な場合には、足しても繰り上がらず、引いてもくり下がらない数字を使う。可能なら、11～19程度までの数字で行う。ひっ算が必要になると、交互に書くリズムが崩れるので注意する。カードに式を書いて渡し、答えを書いたらもらう、とすると交互に書くことが容易になる。付箋などを使用すると、ノートに指導の形跡として貼り付けることもできる。

以上